



## ゾウの耳はどうして大きいのか

### ゾウは暑いと、耳をばたばたさせる

ゾウが耳をばたばたさせるのは、気温が高いときや、スピードを上げて走っているときです。アフリカゾウの場合は、気温が27℃以上になると耳を動かすはじめ、32℃をこえると、耳をばたばた動かすようになります。ゾウは、汗をかか代わりに耳をばたつかせます。人間など、汗をかくことができる動物は、汗がかわくとき体の熱をうばってくれます。そのかわり、汗をかいた分だけのどがかわいて、水を飲みます。ゾウのすんでいる所は、いつでも水が飲める所ではありませんから、汗をかく方法は、ゾウには向いていません。イヌのように、ぬれた舌をハアハア出して、熱をにがす方法も、ゾウにはできません。

### ゾウの耳は体の熱を下げる道具

ゾウは、ウサギなどと同じように、耳の内側の細かい血管が、網の目のようにはりめぐらされている部分に、バタバタ空気を送ることで、体温を冷やす方法を行っています。

ゾウが耳をバタバタさせるたびに、耳の内側を流れる血がたえず冷やされ、冷えた血が体を回って全身を冷やしてくれるわけです。大きな体を冷やすためには、耳も大きいほうがよいということになります。ひかげの多い森にすむマルミミゾウに比べて、日がてりつける草原にすむアフリカゾウのほうが、大きい耳をもっています。（監修・今泉 忠明）

